



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

11月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

ルールはいつから

10月も終わる頃になってようやく、戸外で体を動かすことを気持ちよく楽しめるようになってきました。さくらだこども園では10月19日に、3学年一緒の運動会を行いました。今年度も、子どもたちも保護者の皆様も笑顔があふれる運動会になりました。

3学年を見ていただけたことで、「成長の様子がよく分かった」との感想をたくさんの方から頂きました。3歳児は表現とかけっこを保護者に間近に見守られながら行いました。ぺんぎんになりきってのリズムは、大勢の大人に囲まれた驚きで動きが止まる幼児もいましたが、退場するところまで気持ちは「ぺんぎん！」なのが伝わってきました。かけっこでは、それまではなかなか走り出せなかった幼児も、ゴールにいる保護者めがけてうれしそうに走って行きました。4歳児の気持ちのこもった「よっちょれ」の踊りは、多少の振りの違いなど気にならない、見ている方も元気をもらえるものでした。そしてかけっこでは競争心が出てきているを感じさせる姿が見られました。5歳児は競技や表現だけでなく、係や司会等も仲間と一緒にいき、積み重ねた姿をしっかりと見せてくれ、子どもたちの表情からはやりきった充実感を感じました。

その中でも、一番時間を掛けて積み重ねてきたのがリレーです。夏前からみんなで走ることを楽しみ、徐々にチームで競うようになり、6～7名でチームを固定してそら組とうみ組で競争するようになりました。順位を付けるので、ルールをはっきりさせ、どの幼児もが納得して結果を受け止めてほしいと考えて取り組んできました。始めは「負けるからリレーは嫌だ」と言っていた幼児も、勝ったり負けたりを繰り返す中で、チームで力を合わせて最後までがんばる気持ちももてるようになっていきました。今年の運動会では、結果としてルールが守られなかったので勝敗無しの無効試合、となった試合が4レースのうち2回ありました。保護者から「幼児には厳しすぎるルールではないか」との声も頂きました。先生たちは子どもたちの姿から、そのたび毎に「勝敗がつく競技のルール」を丁寧に幼児に伝えてきました。ルールを守るから公正な勝負ができる、正々堂々、力一杯勝負してほしい、と考えてのことです。今回の無効試合は、5歳児にとっては「？」といった様子で、誰も「勝てなかった！」と友達を責める幼児はいませんでした。それは、どの幼児も最後まで力一杯走りきったからだと思います。

ルールを守る、はいつから教えるものでしょうか。きっと赤ちゃんのときから様々な形で伝えているのだと思います。みんなが気持ちよく過ごすためのルールを、考えていける人になってほしいと願って、保育者も日々試行錯誤しています。幼児期の心持ちは人としての基だだと思います。

—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
 - ・遊びや生活の中で、できることが増えてきた喜びを感じ、進んでしようとする。
 - ・保育者や友達と関わる中で、自分のしたいことを動きや言葉で表そうとする。
 - ・身近な素材を見立てたり、イメージしたものになりきったりして遊ぶことを楽しむ。
- 〈4歳児〉
 - ・気の合う友達と遊ぶ中で、自分なりの思いやイメージを言葉や動きで表したり、友達の言葉を聞いたりし、相手にも自分と違った思いがあることを知る。
 - ・お話しごっこや楽器遊びなど、学級のみんなでする活動に取り組む中で、自分なりの表現を楽しんだり、友達と一緒に動くことを楽しんだりする。
- 〈5歳児〉
 - ・遊びの中で、友達と思いや考えを出し合い、イメージを共通にして、伸び伸びと表現することを楽しむ。
 - ・自分の目標に向かって繰り返し取り組んだり、友達とルールのある遊びをしたりして、いろいろに体を動かすことを楽しむ。
 - ・季節の変化を感じながら秋の自然に興味や関心をもち、自分から関わろうとする。

